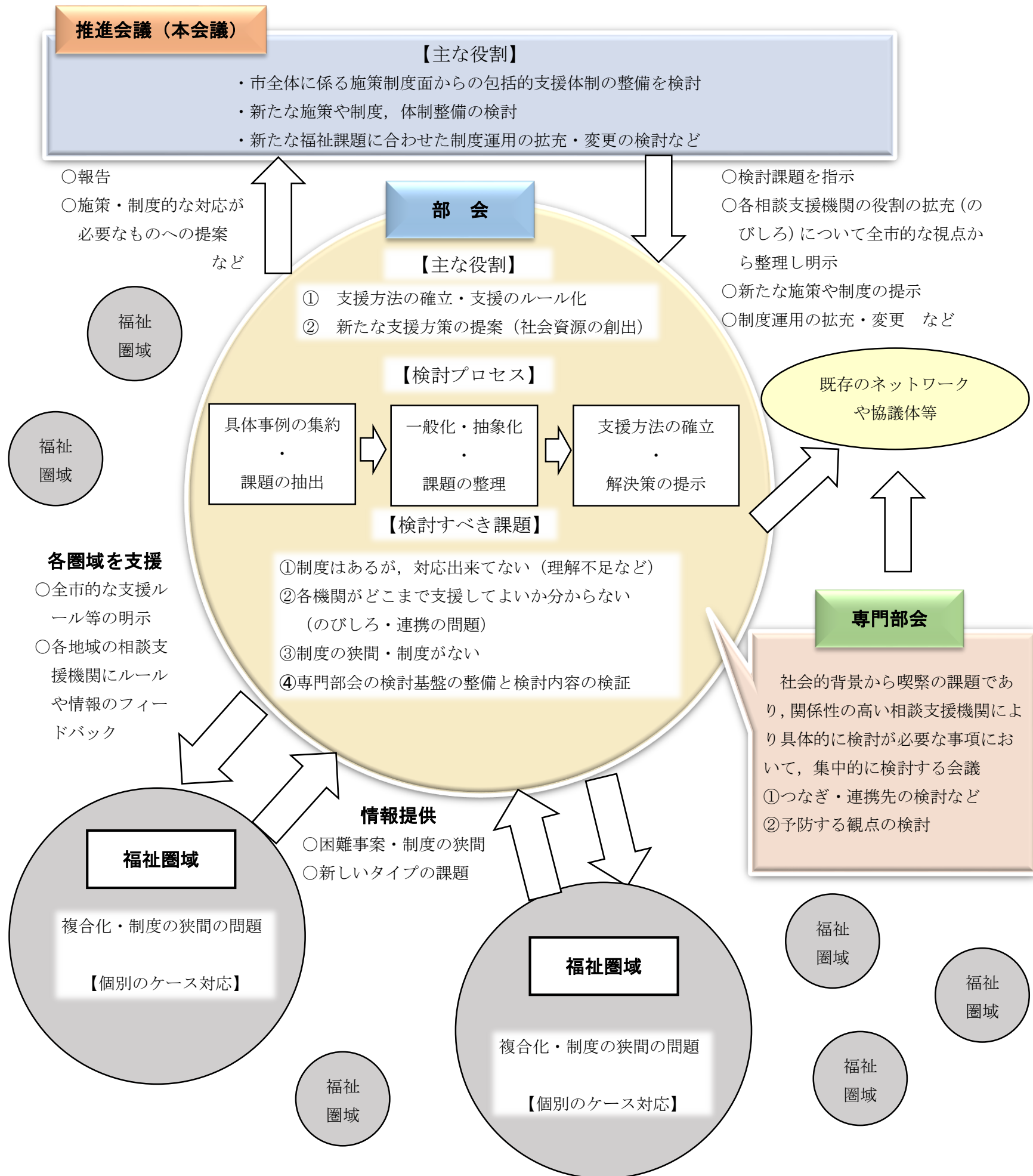


# 相談支援包括化推進会議のイメージ図



## 各会議の具体的な検討例

## 各会議の検討レベル

**【推進会議（本会議）（施策レベル）】**

- 8050問題への対応が課題
- 生活困窮者自立相談支援, こころの健康支援センター, 子・若事業等の支援拡充(のびしろ)と連携環境の整備が必要 など

**一般化**

**【部会（一般化）】**

- ケースの発見は主にどの機関が担うことになるか(アウトリーチ等)  
例) 地域包括の80代への対応から, CSWの地域課題の発見 など
- 主たる支援機関と相談窓口はどこが担うのが適切か。

**施策**  
社会問題レベル  
(例) 8050問題  
ダブルケア  
社会的孤立

**【専門部会】**

- ケース発見後のつなぎと連携方法  
例) 高齢者は, 介護サービスへのつなぎがメインなので, 地域包括・ケアマネ  
例) ひきこもり気味の就労支援は, ライフサポートが担う
- 課題解決に向けて各相談支援機関はどのようにアプローチを行うべきか。(支援のルール化・アプローチ手法の共有)

**整理**  
典型事例レベル

**【各福祉圏域の連携会議（具体的）】**  
(事例) 82歳の父により介護保険サービスにつなげる必要が生じたため地域包括支援センターが状況を確認したところ, 就労が続かず, ひきこもり気味の54歳の子どもがいることが判明した。また, 母は夫の介護で心身に負担を感じ, 地域でも孤立している。  
(対応) CSW, 地域包括, ケアマネ, ライフサポートでケース会議。父の介護問題はケアマネ, 子の就労はライフサポートが支援する。母のストレス及び孤立解消は, CSWがサロンを紹介, 地域住民と支援することとなった。

**解決**  
個別事例レベル

**個別化**